

名鉄グループ 環境報告書

2015





ごあいさつ

私たち名鉄グループは、
環境問題を地球規模で考え、
地域・個人レベルで行動し、
環境にやさしい企業をめざします。

名古屋鉄道株式会社 取締役社長

安藤 隆司

名鉄グループは、「名鉄グループ経営ビジョン」において「地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する」ことを使命として「地域から愛される信頼のトップブランド」をめざすことを経営理念としております。この経営理念に基づき、交通事業を基盤とする企業グループとして「安全・安心の徹底」は勿論、「社会的責任の完遂」を重要な経営方針の一つとして掲げております。

環境活動においては、平成18年4月に環境方針「名鉄グループエコ・ビジョン」を策定し、グループを挙げて環境保全への取組みを積極的に推進しています。また、今年度から3ヵ年を期間とする「アクション・エコ中期計画」を策定し、グループ全体のエネルギー使用量の低減やグループ一体となった環境活動の推進などの目標を掲げて、環境負荷低減に努めております。

近年の当地域での環境に関する取り組みとしては、平成22年に生物多様性条約第10回締結国会議(COP10)、昨年はESDユネスコ世界会議も開催されました。こうした国際的なイベントを通して、積極的な情報発信や交流に取り組んでおります。

また、日本は今年6月の主要7カ国首脳会議(G7)において、平成42年度までに温室効果ガスの排出を、平成25年度に比べて26%削減する目標を表明しました。この目標を達成するために、企業はさらに一層の温室効果ガス削減に向けて、対処していくことが求められています。

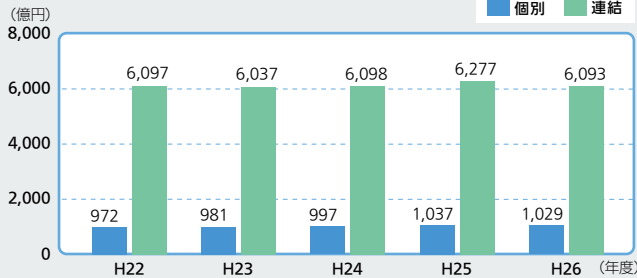
このように環境意識が年々高まる中、電車とマイカーを比較すると同じ距離を移動する際に排出されるCO₂は、電車の方が格段に低いことに着目されています。当社では、鉄道などの公共交通を利用することそのものが「身近で簡単な環境活動であること」を広く地域の皆さまに理解していただくため、平成18年6月より「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンを展開してまいりました。平成20年6月からは、毎年「名鉄エコプロジェクト」を実施し、お客さまに環境問題について関心をもっていただけるようPRに努め、同時に身近なエコ活動の一つとしての鉄道利用を呼びかけております。

また、より多くのお客さまに鉄道を利用していただけるように、沿線でのパーク&ライド駐車場の整備、駅のバリアフリー化などに加え、繰返し利用が可能なICカード乗車券「manaca」を導入しました。この「manaca」乗車券は、平成25年3月には全国の主要ICカードとの相互利用が可能となり、一層利便性が高いものとなりました。

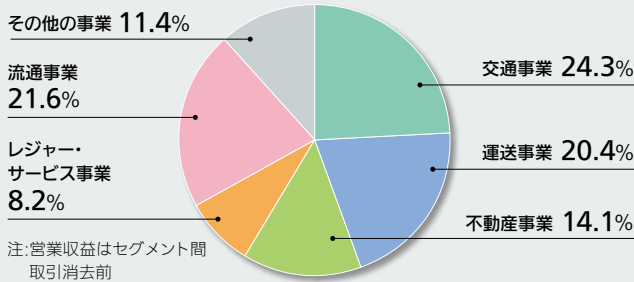
社会貢献の一つとして環境問題への対応が大きな関心を持たれるこの時代において、私ども名鉄グループは、これからも、地域に愛される企業として存続していくため、より一層皆さまとの連携を深めるとともに、地球環境に配慮し、当地域の更なる発展に寄与できるように、引き続き真摯に取り組んでまいります。

名鉄グループの概要 (平成27年3月31日現在)

- 関係会社数 連結子会社 123社
持分法適用会社 15社
- 営業収益 6,093億80百万円 (平成27年3月期)
- 従業員数 30,192人
- 営業収益の推移



営業収益比率 (平成27年3月期)



名鉄グループ経営ビジョン

使 命	地域価値の向上に努め、永く社会に貢献する
経営理念	私たち名鉄グループは、豊かな生活を実現する事業を通じて、地域から愛される「信頼のトップブランド」をめざします
経営方針	経営の原点 お客さま満足度を高める全社体制の確立
	グループ経営の方向 競争に打ち勝つ経営力強化と新しい事業への挑戦
	目指す社風 一人ひとりの資質向上とチャレンジできる風土づくり
	存続の条件 社会的責任の完遂
行動規範	<ul style="list-style-type: none"> ■ 真心のこもったサービスを提供し、信頼を勝ち取ります ■ 新しい流れをつかみ、常にチャレンジします ■ 一人ひとりが役割と責任を果たし、前進します

名古屋鉄道株式会社の概要

社 名	名古屋鉄道株式会社 Nagoya Railroad Co., Ltd.
創 業	明治27年(1894年)6月25日
設 立	大正10年(1921年)6月13日
代 表 者	取締役社長 安藤 隆司
資 本 金	888億63百万円 (平成27年3月31日現在)
営業収益	1,029億円 (平成27年3月期)
従業員数	4,998人 (平成27年3月31日現在)
事業内容	鉄軌道事業、開発事業
駅 数	275駅
営業キロ	444.2km
輸送人員	年間360,113千人 (平成26年度実績)

目 次

○ ごあいさつ / 名鉄グループの概要	1
○ Vision	
○ 名鉄グループ エコ・ビジョンと推進体制	2
名鉄グループ エコ・ビジョン	2
推進体制	2
アクション・エコ中期計画	3
環境マネジメントシステムの導入	3
○ Plan & Action	
○ 名古屋鉄道の取り組み	4
名鉄エコ・プラン	4
行動指針①環境負荷の軽減	5
行動指針②利便性の向上	9
行動指針③地域環境貢献	10
○ 【特集】名鉄グループ各社における地域貢献活動	11
行動指針④環境法令の遵守	11
○ 【特集】名鉄エコプロジェクト2015	12
○ 電車で、ECO MOVE。	12
○ Data	
○ 環境負荷データ	14
○ 環境会計	15
○ Group	
○ 名鉄グループの取り組み	16
交通・運送	16
不動産・技術	17
流通/レジャー・サービス	18

名鉄グループ エコ・ビジョンと推進体制

グループ環境方針のもと、推進体制を確立し、環境活動の深度化を図っています。

名鉄グループ エコ・ビジョン

名鉄グループでは、環境にやさしい企業活動をグループ経営戦略のひとつとして活かし、社会的責任の完遂を進めていくため、平成18年4月に環境方針「名鉄グループ エコ・ビジョン」を策定しました。

名鉄グループ エコ・ビジョン

基本理念

名鉄グループは、環境問題を地球規模で考え、
地域・個人レベルで行動し、環境にやさしい企業をめざします

基本方針

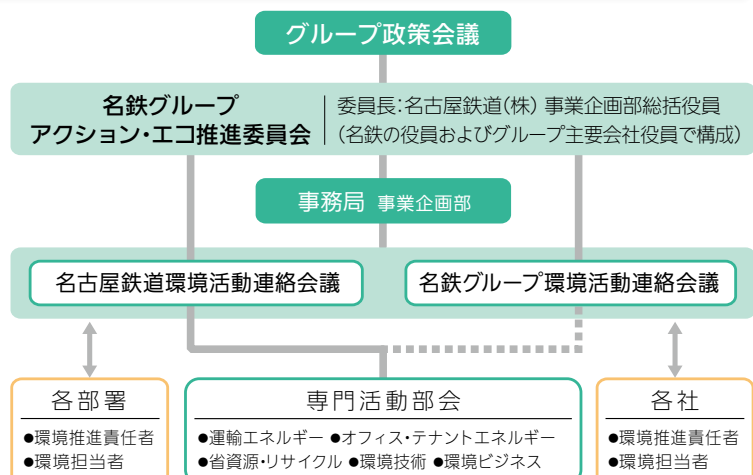
- 1 環境問題に対する一人ひとりの意識向上につとめます**
地球環境問題を正しく理解し、持続可能な社会の実現のために一人ひとりが行動できるよう、環境教育や啓発を通じて、意識向上を図ります。
- 2 環境保全に関する技術力の向上と提供につとめます**
グループが展開する幅広い事業を活かし、各社は保有・開発する環境保全事業やノウハウの共有と社会への提供を通じて、環境負荷の軽減を図ります。
- 3 地域との連携を大切にし、環境保全に対する社会貢献につとめます**
地域を中心とした関係各方面と協力し、地球環境保全の向上を図ります。
また環境に関する情報公開を通じて、あらゆるステークホルダーとの対話を深めます。
- 4 環境法令の正しい理解と遵守につとめます**
名鉄グループ企業倫理基本方針に則り、環境法令の理解・遵守はもちろんのこと、各社相互間の情報交換等を通じて、環境リスクの予防と低減を図ります。

行動目標

上記の基本理念・基本方針を受け、名鉄グループ各社毎に、環境活動における行動目標を設定します。

推進体制

名鉄グループ一体となった活動を推進するため、平成18年4月に「名鉄グループ アクション・エコ推進委員会」を設置しました。この委員会では、グループ政策会議で決定される基本方針を受け具体的な施策の立案と推進を行います。施策の実施を円滑に行うため、連絡会議の開催や、各部署・各社に配置した「環境推進責任者」「環境担当者」を通じて、活動の浸透を図っています。



アクション・エコ中期計画

名鉄グループ アクション・エコ推進委員会では、グループが一体となった環境活動を推進するため、平成27年度から3カ年を計画期間とする「アクション・エコ中期計画(2015～2017年度)」を策定しました。本計画では、「名鉄グループエコ・ビジョン」の基本方針に基づき、4つの重点テーマを設定し、更にそれぞれのテーマごとにブレイクダウンした取り組み事項を定めています。

■名鉄グループ 新アクション・エコ中期計画 (2015年度～2017年度)

[重点テーマ]	[取り組み項目]
1 環境意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> ■環境方針の周知 <ul style="list-style-type: none"> ●環境教育の実施
2 環境負荷の軽減	<ul style="list-style-type: none"> ■エネルギー使用量の削減 <ul style="list-style-type: none"> ●省エネ車両の導入・切り替え ●省エネ設備・機器の導入・切り替え ●エコ運転への取り組み推進 ■オフィスにおけるエコ活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●エコオフィス運動の推進 ●紙使用量の削減 ●水使用量の削減 ●事務用品のグリーン購入推進 ■環境保全の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●騒音・振動の低減 ●廃棄物の削減及びリサイクル率の向上 ■環境マネジメントシステム構築の推進 <ul style="list-style-type: none"> ●ISO14001、グリーン経営認証等の取得推進 ●PDCAサイクルの確実な実施と活用
3 環境コミュニケーションの推進	<ul style="list-style-type: none"> ■積極的な情報開示 <ul style="list-style-type: none"> ●グループ環境報告書の発行・コンテンツ充実 ●WEBでの積極的な情報開示 ■環境活動PRの推進 <ul style="list-style-type: none"> ●環境ポスター・車内吊広告による環境活動のPR ●環境イベントの開催 ●子供向け環境教育の強化 ■地域と一体となった環境活動への取り組み <ul style="list-style-type: none"> ●地域との協働による清掃活動 ●鉄道沿線や事業所等における植栽活動
4 環境関係法令の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ■事業に関連する環境関係法令への対応 <ul style="list-style-type: none"> ●有害物質の厳正な管理

環境マネジメントシステムの導入

名鉄グループ各社では、より環境に配慮した事業展開を行うため、各種の環境マネジメントシステムを導入しています。これにより、環境負荷の軽減や環境リスクの予防はもとより、経営効率の向上などの効果も生まれています。

■ISO14001認証取得会社

会社名	取得年月	審査登録機関
名古屋鉄道(舞木検査場)	平成12年6月	JQA
矢作建設工業	平成12年8月	建材試験センター
メイエレクト	平成13年6月	JQA
名鉄ビルディング管理	平成14年6月	JQA
名鉄百貨店	平成14年8月	JUSE(取得時はJQA)
名鉄運輸	平成14年9月	JQA
名鉄協商	平成15年2月	ビューローベリタスジャパン
名鉄クリーニング	平成15年3月	KHK

JQA:日本品質保証機構 KHK:高圧ガス保安協会 JUSE:日本科学技術連盟

■グリーン経営認証取得会社

バス	名鉄観光バス / 濃飛乗合自動車
タクシー	名鉄交通 / 愛電交通 / 名鉄西部交通 / 石川交通 名鉄知多タクシー / 名鉄東部交通 / 名鉄岡崎タクシー 名鉄名古屋タクシー / 豊鉄タクシー
トラック	信州名鉄運輸 / 信州名鉄運送 / 四国名鉄運輸 四国名鉄運送 / 名鉄ゴールデン航空 / 東北名鉄運輸 名鉄急配 / 新潟名鉄 / トーハイ / 中国名鉄運送 北陸名鉄運輸 / 和歌山名鉄運輸 / 九州名鉄運輸

■名古屋市エコ事業所認定会社

名古屋鉄道 / 名鉄百貨店 / 名鉄協商 / 名鉄産業 / 名鉄交通商事
矢作建設工業 / メイエレクト / 名鉄環境造園 / 名鉄観光バス
名鉄急配

■自動車エコ事業所認定会社

名鉄バス / 名鉄バス中部 / 名鉄協商

■エコアクション21認証取得会社

名鉄交通商事 / 名鉄レストラン

(平成27年8月現在)

TOPICS

エコアクション21の 認証取得

名鉄レストランでは、平成26年5月に本社および運営するサービスエリア4店舗(養老・多賀・上郷・恵那峡)において、環境省が推進する「エコアクション21」の認証を取得しました。これはサービスエリアにおいて食品廃棄物の減量・リサイクルに努めたことや、地産地消を推進するために地元の食材を積極的に採用したこと、売場や厨房において電気・ガスなどのエネルギー使用の削減に取り組んできたことが評価されたものです。

名古屋鉄道の取り組み



名古屋鉄道は、名古屋を中心として愛知・岐阜両県下に444.2kmの鉄道路線網を持ち、お客さまの足として公共交通サービスを提供しています。地球環境問題への意識が高まる中、エネルギー効率のよい鉄道は、マイカーに比べCO₂排出量が約8分の1であり、「環境にやさしい乗り物」として、その果たす役割が見直されてきています。当社は、省エネルギー車両への更新やパーク&ライド駐車場の整備、使用済み乗車券のリサイクルなどに継続的に取り組み、地球温暖化防止に努めています。

これからも、さらなる輸送サービスの向上をめざし、さまざまな交通事業者との連携や地域特性を生かした交通ネットワークの充実を図るとともに、安全で快適な移動環境を提供することで、お客さまの利便性と満足度を高め、地域社会に貢献していきたいと考えています。

名鉄エコ・プラン

平成19年4月に環境活動の基本的な考え方を示す環境方針「名鉄エコ・プラン」を制定しました。各部署は、「名鉄エコ・プラン」の行動指針と行動目標に基づき、それぞれの業務の中で発生する環境負荷の把握を行い、それを軽減させるための各種取り組みを行っています。

名鉄エコ・プラン

行動指針

1 環境負荷の軽減

省エネルギー、リサイクルなどの目標を掲げ、温室効果ガスを削減します。

- 運転電力削減目標を達成します。
- 使用済み乗車券のリサイクル率100%を達成します。

2 利便性の向上

効率的で利便性の高い公共交通サービスを提供し、環境にやさしい鉄道の利用を促進します。

3 地域環境貢献

地域の皆さまとともに環境保全活動を推進し、環境にやさしい地域社会づくりに貢献します。

4 環境法令の遵守

環境問題に対する意識を高め、環境法令の遵守を徹底します。

行動目標

「環境に関する行動目標」を毎年度策定し、実施する。

■2015年度 名古屋鉄道 環境に関する行動目標

テーマ	取り組み内容	
1 環境意識の向上	環境教育の実施	社内研修の実施、家庭内エコ活動の推奨
2 環境負荷の軽減	鉄道運転電力の削減	運転電力原単位 平成26年度比1%削減
	列車騒音・振動の低減	ロングレール化の推進
	グリーン購入率の向上	グリーン購入率80%以上の達成
	エコオフィス運動の推進	「エコ・マニフェスト」の推進
3 環境コミュニケーションの推進	省エネ設備導入の検討	LED照明等の導入検討
	地域への環境貢献	地域との協働による清掃活動の実施
	環境活動のPR	「名鉄エコプロジェクト2015」の実施、子供向け環境教育の推進
4 環境法令の遵守	積極的な情報開示	環境WEBサイト・「環境報告書」の充実
	廃棄物の厳正な管理	廃棄物管理体制の強化

エコ・プラン行動指針 ① 環境負荷の軽減

電車の運転電力原単位の向上

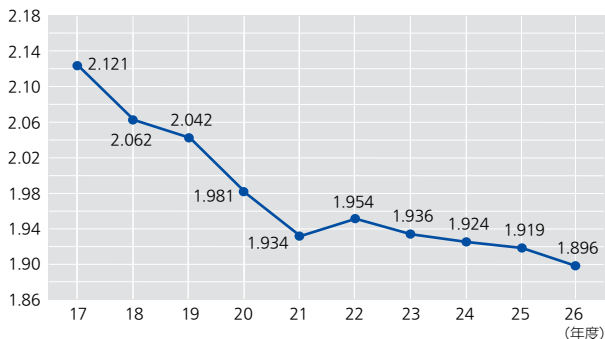
電車の運行では、非常に多くの電力を消費します。なるべく少ない電力で運行ができるよう、乗務員の節電運転研究や、線区ごとの省エネ活動組織(運輸エネルギー部会)での取り組みのほか、車両自体の省エネルギー化の推進や電気設備の改良を行い、原単位*の向上に努めています。

平成26年度は、節電を意識した運転操作を行うとともに、気候に応じたこまめな車内空調の取扱いを心がけたほか、震災以降の節電対策として車内灯の間引き、空調設定の変更なども継続して実施しました。これらの取り組みに加え、車両の省エネルギー化もあり、運転電力原単位は前年比で1.2%ほど向上しました。今年度は新たに、以下のような目標を設定し、更なる原単位の向上に努めていきます。

※車両1両が1km走行するのに要する電力量

▶ 平成29年度の電車の運転電力原単位を、全線で平成26年度比▲3%をめざします。

● 1車両1キロあたりの電力使用量の推移 (kWh/Car-km)



車両の省エネルギー化

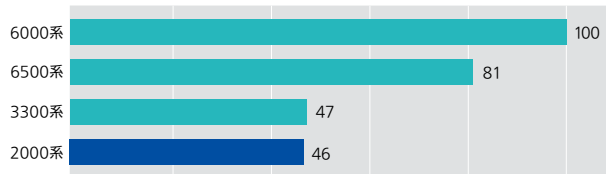
省エネの観点から、旧型車両の計画的な更新を進めています。ブレーキ時にモーターを発電機として作用させ、生み出された電力を架線に戻し、他の電車が加速する際その電力を使えるようにできる「電力回生ブレーキシステム」や、架線から受ける直流電流を交流に変換し、効率よく電力の使用ができる「VVVFインバータ制御」機能を搭載した省エネルギー車両への更新により、消費電力の削減を図っています。

平成26年度には、既存車両4両(抵抗制御方式)を廃車し、瀬戸線はすべて4000系に置きかわり、100%VVVFインバータ制御を搭載した車両になりました。今後も快適性の向上とともに、省エネルギー車両の導入を推進していきます。

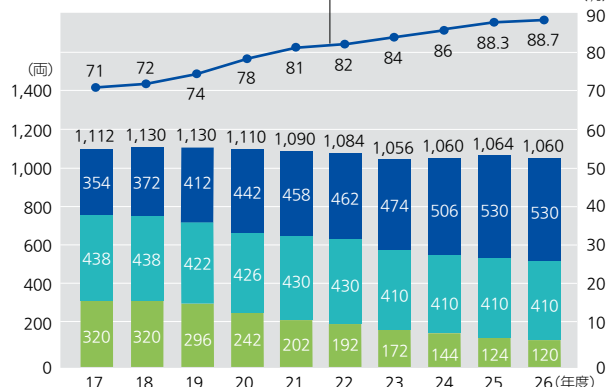
平成26年度末現在

車両数 ----- 1,060両
 省エネルギー車両数 ----- 940両
 省エネルギー車両導入率 ----- 88.7%

● 名鉄の車両別消費電力の比較 (指数[6000系=100])

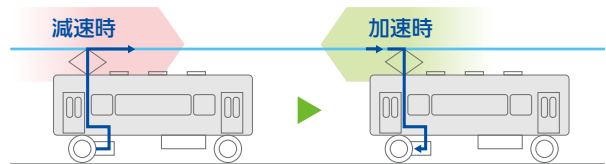


● 省エネルギー車両の推移



■ VVVF車(回生ブレーキ付)(2000系、3500系など) 530両
 ■ 回生ブレーキ車(6500系など) 410両
 ■ 従来型車(6000系) 120両

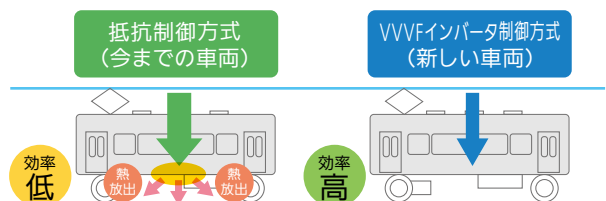
● 電力回生ブレーキシステムの仕組み



ブレーキ時に、モーターを発電機として作用させ、発生する電力を架線へ返す。

回生された電力をもらって加速する。

● VVVFインバータ制御の仕組み



抵抗器を用いて電力量の調節を行っていたため、抵抗器の発熱によって電気エネルギーを無駄に消費してしまう。

少ない消費電力で、速度に応じて電圧や周波数を調整し、最適な制御を行い、電気を効率よく使って、省エネ運転が可能。

電気施設の省エネルギー化

鉄道事業において非常に多く使用する電力を、最大限効率よく使用し、地球温暖化防止に貢献するため、電気施設の省エネルギー化を推進しています。

■力率改善コンデンサの設置

大容量の電力を直接、電力会社から購入し、沿線35カ所に設けた自社変電所で受電し、主に電車の運転エネルギーとして使用しています。受電した電力を効率よく使用するため、変電所に力率改善コンデンサーを設置し、エネルギー効率の向上を図っています。現在11の変電所で使用し、平均力率99%となっております。

■き電線の強化

架線に流れている電車運転電力の送電ロスを低減させるため、き電線を太くするなどの強化を進めています。当社ではすべての線区で上下一括き電方式を採用しています。この方式は、上り下りの架線を接続して電力を供給する方式で、走行中の電車まで効率良く電気を流すことができます。また、回生電力を上り下りの電車に限定されることなく、有効に使えるメリットもあります。



電気保守作業

■騒音の低減化

変電所の新設や大規模改良工事の機会に合わせて、防音壁等の設置や屋内型機器の採用により、変圧器のうなり音や開閉装置等の動作音による騒音の低減を図り、周囲の環境に配慮しています。



屋内型機器を採用した各務原変電所

■信号機および踏切灯器のLED化

信号機および踏切灯器で使用する電球のLED化を順次進めており、平成27年3月時点では全信号機の41%に導入しています。LEDは電球に比べ消費電力が少なく、長寿命であるだけでなく、視認性にも優れているため、今後も新設または更新の際にはLED化を積極的に進めていきます。



LED化した信号機

沿線環境保全

■ロングレール化

レールには継目があり、継目の上を列車が通過することにより、騒音と振動が発生します。これを軽減するため、継目を溶接し、1,000m前後の長さにするロングレール化を各所で進めています。



土木保守作業



ロングレール化累積施工実績(平成26年度末時点)
269.8km(敷設可能区間のうちの73.3%)

■レールの重量化

レールを重いものにする事で列車の走行性が安定し、乗り心地が向上するほか、騒音・振動の減少にも効果があります。本線軌道長のうち99%が重レール(50kg/m以上のレール)になっています。

■レール削正車の導入

線路の保守管理の新しい手法として、車体の下に装着された16個の砥石を高速回転させ、レールの細かな傷や凹凸を削り取るレール削正車を導入しました。これにより、レール寿命の延伸、騒音・振動の軽減や乗り心地の向上を図っています。平成26年度は、名古屋本線、常滑線等において、軌道延長47.6kmのレール削正を実施しました。



16頭式レール削正車

TOPICS 車輪フラット検出装置

メイエレックでは、車輪踏面に発生したフラット・剥離・熱亀裂を早期発見する装置を、名古屋鉄道と共同開発で平成11年に導入し、騒音・振動低減と業務効率化に大きく寄与しており、他の鉄道会社にも導入されています。(特許登録済)



センサー設置状況

お問合せ

株式会社メイエレック
技術開発部 技術課 052-678-1895

リサイクルの取り組み

名古屋鉄道では、早くから使用済み乗車券のリサイクルに積極的に取り組んできました。平成8年度にリサイクルシステムを稼動してから段階的にリサイクル処理量を増やし、平成18年度には初めてすべての使用済み乗車券(定期券およびカード類含む)をリサイクルすることに成功しました。

紙製乗車券の大部分は、マテリアルリサイクルを行っています。名刺などの事務用品をはじめ、駅のベンチや分別ボックス、トイレトーパーへの再生も積極的に行うとともに、リサイクルシステムを他の鉄道事業者などへも広がっています。(平成26年度末時点約18社局)

平成26年度は、使用済み紙製乗車券が23t発生、すべてをリサイクル処理し、使用済み乗車券を原料に製作したリサイクルベンチの背板を24枚、座板を59枚設置しました。



乗車券リサイクルトイレットペーパー



乗車券リサイクルベンチ



平成26年度乗車券リサイクル率 **100%**(紙製乗車券)

オフィスでのエコ活動

オフィスでの環境活動は、廃棄物の分別から省エネルギー、グリーン購入に至るまで、さまざまです。身近で幅広いオフィスでの取り組みは、企業の環境活動の基本として位置付け、継続的に取り組んでいます。

■各部署共通『エコ・マニフェスト』の策定

従業員一人ひとりの環境意識の一層の高揚により、エコな職場の実現を目指していくため、各部署共通の『エコ・マニフェスト』を定めています。『エコ・マニフェスト』はポスターにして各部署で掲示しています。

各部署共通エコ・マニフェスト

1. 長時間離席時の照明消灯・パソコンディスプレイ閉じの徹底
2. オフィス内の適度な温度設定
3. 紙・水使用量の削減
4. 環境対応商品(グリーン商品)の採用
5. 家庭におけるエコ活動の実施

■多分別ボックスの設置

オフィスで発生する多種多様の廃棄物を、資源として可能な限り有効に活用するため、多分別ボックスの設置を行っています。本社事務所では、10種類に分別し、廃棄物のリサイクル率向上を図っています。



多分別ボックス

■グリーン購入方針の策定

環境に配慮した資材や物品の購入を行うグリーン購入を進めています。当社では、平成15年に購入の際の指針となる「グリーン購入方針」を策定しています。



平成26年度グリーン購入率 **78%**(金額ベース)

名古屋鉄道グリーン購入方針

製品を購入する際には、次の項目に留意して、できる限り環境負荷の少ない製品の購入に努める。

1. 環境汚染物質の有無の確認
2. 省エネルギー製品の優先的購入
3. 長寿命製品の優先的購入
4. リユース・リサイクルの推進
5. リサイクル製品の優先的購入
6. 廃棄の際に環境負荷の少ない製品の優先的購入
7. 環境に関する情報を入手しやすい製品の優先的購入

■クールビズ・ウォームビズの実践

名古屋鉄道では、平成17年から環境省が地球温暖化防止行動として提唱している「クールビズ」「ウォームビズ」を毎年実践しています。夏季は5月上旬から10月の6か月間、本社を中心とした部署で、空調温度を高めに設定し、軽装による勤務を実施しています。冬季は12月から翌年3月までの4か月間、「ウォームビズ」に取り組んでいます。

その他の取り組み

■自然エネルギーの利用

駅や駅ビルの設備において、太陽光や雨水など、自然エネルギーを利用しています。

尾張瀬戸駅では、平成13年から太陽光発電パネルおよび雨水タンクを設置し、駅の照明の一部、トイレの洗浄水を賅っています。また名鉄新一宮ビル(名鉄百貨店一宮店)および名鉄長住町ビル(岐阜ロフト)でも、雨水を雑用水の一部に活用しています。



平成26年度実績

太陽光発電 1,043kWh 雨水使用量 11,330m³



太陽光発電パネル(尾張瀬戸駅)

■鉄道センタービルにおける環境配慮への取り組み

平成24年4月に竣工した「鉄道センタービル」では、環境への配慮や省エネに対する様々な取り組みがされています。中でも、各階執務室に換気窓を設けることで、階段シャフトから煙突効果を利用した自然換気システムを導入した事により、通常時は外気を取り入れ空調負荷を低減し省エネを図ると共に、室内環境の快適性が向上しました。また、非常時における事業継続にも寄与しています。その他にも、屋上の一部を緑化することで事務棟執務室のアメニティ向上にも配慮しています。



鉄道センタービル

■名古屋クロスコートタワーにおける環境配慮への取り組み

名古屋鉄道、中部経済新聞社、東和不動産の3社共同事業による「名古屋クロスコートタワー」は平成24年6月に竣工しました。同ビルは、名古屋駅や隣接する愛知県産業労働センター(ウイングあいち)、ミッドランドスクエアと地下道で繋がる利便性の高いオフィスビルです。地下1階には多様な飲食店が集まった「チカマチラウンジ」があります。

また地球環境への配慮として、南側の壁面に水平ルーバーを、東・西壁面に縦ルーバーを設置して太陽光が室内に直接入るのを防ぐほか、窓際の照明は、明るさセンサーによる点灯制御を行い省電力化を行っています。遮熱高断熱複層ガラスや自然換気ダンパーを採用することで、室内の冷暖房のエネルギーコストの低減を図っています。



名古屋クロスコートタワー

■μPLAT金山および金山駅構内における照明のLED化

名古屋鉄道では、平成26年9月に金山駅の商業施設「金山プラザ」を「μPLAT金山」として、リニューアルオープンしました。それにあわせ、同施設ならびに同駅構内の照明器具の一部をLEDに更新し、省エネルギー化を図りました。



LED照明(金山駅)

エコ・プラン行動指針 ② 利便性の向上

ICカード乗車券

名古屋鉄道、名鉄バス、豊橋鉄道では、名古屋市交通局（地下鉄・市バス）、名古屋臨海高速鉄道（株）（あおなみ線）、名古屋ガイドウェイバス（株）（ゆとりーとライン）でも利用できるICカード乗車券「manaca」を平成23年2月に導入しました。manacaは繰り返し使えるエコなカードであり、事前にチャージ（入金）しておけば、自動改札機やバス運賃箱にタッチするだけで運賃を自動的に差し引くことができ、定期入れなどから取り出す必要もないほか、マイレージポイントの導入や電子マネー機能の付加などにより、お客さまの利便性を高めています。

平成25年3月からは、全国の10の交通系ICカード※による全国相互利用サービスがスタートしました。これにより、manaca1枚で、本サービスに対応したエリアでの鉄道、バスや電子マネーによるショッピングにご利用いただけるようになりました。

※ 相互利用サービスを実施している交通系ICカード
Kitaca、PASMO、Suica、manaca、TOICA、PiTaPa、ICOCA、はやかけん、nimoca、SUGOCA



ICカード乗車券「manaca」

沿線地域におけるmanaca導入

名古屋鉄道では、沿線の自治体や商工会等と連携し、manacaの決済端末の導入を推進し、沿線の住民の皆様の利便性の向上に努めており、今後も普及を図っていきます。

平成25年8月からは尾張旭市商工会と協力し、尾張旭市商工会加盟店合計32店舗で、平成25年9月からは瀬戸まちづくり（株）と協力し、瀬戸市内の3つの商店街の34店舗でmanacaの決済端末を導入しました。

また、平成26年度には知立市商工会、岩倉市商工会と連携して、各地域の店舗でmanacaの決済が可能となりました。

学生証一体型manaca

名古屋鉄道とメイテツコムでは、平成24年4月から、名古屋産業大学、名古屋文理大学・同短期大学部及び、名古屋文理栄養専門学校に、東海地方で初となる、学生証とmanacaが一体となった「学生証一体型manaca」を発行しています。平成27年4月からは、愛知医療学院短期大学と米田柔整専門学校において発行を開始しました。各大学・学校において、manacaの認証機能を活用した出欠・入退室などの学修管理や図書館管理、証明書発行などの各種学内システムへの対応が可能となるとともに、定期券として通学での利用に加え、学内の食堂や売店、自動販売機などにもmanaca電子マネー決済を導入することで、学生の利便性の向上を図っています。



学生証一体型manaca

ミュージスターポイントサービス

平成26年3月17日から、「名鉄ミュージスターカード」の発行にあわせ、新たにミュージスターポイントサービスを開始しました。本サービスは、対象店舗でのmanaca電子マネーのご利用でたまるミュージスターポイントと、「名鉄ミュージスターカード」のショッピングでのご利用でたまるミュージスターポイントを合算できる、利便性の高いポイントサービスです。たまったミュージスターポイントはmanacaにチャージしてご利用できるほか、名鉄グループの商品とおトクに交換ができます。



パーク&ライド駐車場・駐輪場の整備

マイカーの利便性と鉄道の環境効率のよさを組み合わせた「パーク&ライド駐車場」の整備を積極的に進め、その活用をお客さまに呼びかけています。移動手段をマイカーから鉄道に切り替えていただければいただけるほど、地域の環境負荷軽減につながります。より多くのお客さまに最寄りの駅の駐車場にマイカーを止め、駅からは鉄道をご利用いただけるよう、沿線に約19,900台の駐車場を整備しています。



パーク&ライド駐車場（鳴海駅）

「パーク&ライド割引」サービス

名古屋鉄道と名鉄協商では、名鉄電車とICカード「manaca」利用促進および、名鉄協商の駐車場の利便性向上を目的に、manacaを使った「パーク&ライド割引」サービスを名鉄協商パーキング「豊橋西」および「新鵜沼」において展開しています。このサービスは、上記駐車場を出庫する際、駐車場の最寄駅の降車情報（駐車した日と同日に限る）が記録されたmanacaを専用端末にタッチすると、自動的に駐車料金から一定金額が割り引かれるものです。

両社では「パーク&ライド」を積極的に推進しており、今後もさまざまなサービスを通して、「パーク&ライド」の更なる普及を図っていきます。



エコ・プラン行動指針 3 地域環境貢献

沿線での清掃奉仕活動

名古屋鉄道は駅をはじめ沿線を中心に、多くの事業所が点在しています。事業所が所在するそれぞれの地域の皆さまと、よりよい関係を保ち、共存させていただくため、環境面での社会貢献活動も積極的に行っています。

例えば、本社周辺では「名駅をきれいにする名鉄グループの会」を立ち上げ、名鉄グループの各社とともに毎月第2・第4月曜に名鉄名古屋駅周辺の清掃活動を行っています。

また、舞木検査場や犬山検査場では、名鉄エコ・プランの行動指針の一環として、地球環境への貢献を目的に検査場周辺の清掃活動を定期的に行っています。



「名駅をきれいにする名鉄グループの会」の清掃活動



検査場周辺の清掃活動

環境イベントの実施

環境イベントを通じて、当社の環境活動について広くご理解いただけるよう努めています。平成26年度は、岡崎市主催の「公共交通に親しむ日」に参画し、エコムーブトレインの車内でエコ教室を実施しました。

また、「名鉄でんしゃまつり」では会場内で当社の環境活動を紹介したほか、エコ教室やクイズラリー形式で楽しく環境について学ぶ企画を実施しました。今後も地域の皆さまと環境について考えるイベントや活動を進めてまいります。



エコ教室

TOPICS

「中部地方電気使用合理化委員会委員長表彰」を受賞

名古屋エアケータリング(株)は平成27年2月17日、「平成26年度エネルギー管理優良事業者等表彰式」において、「中部地方電気使用合理化委員会委員長表彰」を受賞しました。この表彰は、愛知・岐阜・三重・静岡・長野の約7000の事業所の中から、エネルギー管理の推進に尽力した事業者を中部電力(株)が推薦・審査したもので、同社が地球環境保全に対するCSRの一環として行った、エネルギー原単位を低減させる省エネ活動が評価されたものです。今後も名鉄グループの一員として、地球環境に優しいエコ事業所を目指していきます。



お問合せ

名古屋エアケータリング株式会社 総務部 0569-38-7900

特集

名鉄グループ各社における地域貢献活動

[バスの乗り方教室の実施]

■名鉄バス

名鉄バスでは、高齢社会における施策の一環として、平成24年より沿線地域の高齢者を対象に同教室を実施しています。

実際のバスを用いて乗車・降車のしかた、運賃表の読み方、manacaの使い方など乗車体験を通じて解説するとともに、ドライブレコーダーに記録された車内事故映像をご覧いただき、バス乗車時の安全確保について注意喚起を図っています。

今後もこの高齢者向けの「バスの乗り方教室」を沿線地域で順次実施し、より安心して乗合バスをご利用いただけるよう努めてまいります。



お問合せ 名鉄バス株式会社 管理部 052-588-0780

■濃飛乗合自動車

濃飛乗合自動車では、身近な乗り物でありながら意外と知られていない路線バスを安全・安心にご利用いただくことと、バスのファン作りを目的として、平成24年より小学校や保育園、老人クラブ等を対象に同教室を実施しています。

同社も実際のバスを使用しながらバスの乗り方や車内でのマナー、緊急時の対応方等について説明することで、普段バスを利用する機会が少ないお子様も興味を持って参加しており、地元の方々から好評をいただいています。



お問合せ 濃飛乗合自動車株式会社 営業部 0577-33-7762

[福祉施設とのコミュニケーション推進]

■名鉄レストラン

名鉄レストランでは、地域の福祉施設との交流を毎年行っております。養老サービスエリアでは平成26年10月、社会福祉法人「あゆみの家」を訪問し、昼食会を開催しました。当日は241名の施設の皆様に、飛騨牛などの地元産食材を使用したメニューを召し上がっていただきました。このような昼食会は本年度で13回目を迎え、また多賀、上郷、恵那峡、国見の各サービスエリアでも同様の昼食会等を適宜開催しており、地域交流の推進に取り組んでおります。



お問合せ 株式会社名鉄レストラン 0586-85-5601

[バス・鉄道沿線美化清掃の実施]

■北陸鉄道

北陸鉄道では、会社創立70周年記念事業の一環として、平成25年10月21日に、金沢市内中心部のバス停留所や鉄道駅を中心に、沿線の美化清掃を行いました。

当日は北陸鉄道や北鉄金沢バスから約40名が参加し、地域の皆様への感謝の気持ちをもって、美化に取り組みました。



お問合せ 北陸鉄道株式会社 企画部 076-237-8113

エコ・プラン行動指針 4 環境法令の遵守

環境教育

従業員一人ひとりが環境問題や環境法令に対して正しい認識を持つことが、活動の基礎として最も重要であると考え、全従業員に対して、定期的に環境教育を実施しています。(新規採用時、入社10・20年経過時等)

●平成26年度 環境教育(研修)受講者数

新入社員研修	入社10・20年次研修	合計
145名	159名	304名

改正省エネ法への対応について

名古屋鉄道は、平成18年4月に改正された省エネ法に基づき、特定輸送事業者として、鉄道事業に係る省エネルギー計画書および毎年のエネルギー使用量の報告を行っています。

また、平成21年4月に改正された省エネ法に基づき、平成26年度分の当社全体のエネルギー使用量を届出しています。

PCB廃棄物への対応について

カネミ油症事件に端を発し、製造が禁止された絶縁油「PCB」は、変圧器や整流器、蛍光灯の安定器等で多く使用されており、機器の使用中止後も専用の処理施設以外での廃棄処分は認められていません。

当社でも柱上トランスや、車両、ビルの電気室などでPCB使用の電気機器があり、使用後は厳重に保管をしています。平成20年1月に当社の廃棄物の処理が始まり、法で決められた処理期限(平成39年3月末)までに完了する予定です。



PCB廃棄物の搬出作業

名古屋鉄道では、平成18年6月から環境にやさしい鉄道の利用促進をPRするキャンペーン「電車で、ECO MOVE。」を展開していますが、その一環として、本年度で第8回目となる「名鉄エコプロジェクト2015」を実施しています。

このプロジェクトは鉄道の環境優位性および名鉄グループの環境への取り組みをご理解いただくとともに、環境に対する意識を高めていただくことで、名鉄沿線の豊かな自然や風景を守り、次世代につないでいくことを目的としています。

“エコムーブトレイン”の運行

平成20年の運行から今回で8代目となるエコムーブトレイン。今回は、電車に乗る人にも、外から見る人にも、楽しく環境に対する意識を高めていただく仕掛けとして、外観には、里山の風景に「電車で、ECO MOVE。」のエコキャッチフレーズを入れ、楽しげで鮮やかなラッピングをあしらいました。また、車内には、名鉄グループの環境への取り組みや、エコ活動について学べるポスターを掲示しています。



バスエコハイキングの実施

名鉄観光バス(株)との合同企画として、平成27年11月3日に、バスハイキング「4万年の湿原を抱く山門水源の森を歩こう!」を開催します。同コースでは、ハイキング出発前に、山門水源の森を次の世代に引き継ぐ会の方による山門水源の森の多様な自然と自然保護活動についてのレクチャーを実施。環境保全の大切さについて学んだ後、多様な動植物が息息する貴重な森でのハイキングをお楽しみいただく予定です。



山門湿原(写真提供:藤本秀弘氏)

電車で、ECO MOVE。

地球環境への問題意識が高まる中、皆さまが普段心がけている「エコ活動」にはどのようなものがあるでしょうか。エコバッグを持ち歩き、レジ袋を断ったり、電気をこまめに消したり、家電製品を省エネタイプのものに買い替えたり、いろいろな活動が思い浮かぶと思います。

しかし、身近な「エコ活動」の一つに「鉄道を利用すること」が非常に有効であることをご存知でしょうか。地球温暖化の原因といわれる二酸化炭素の、国内で排出される約2割は人や物の移動に関わる運輸部門によるもので、そのうちのほぼ半分がマイカーによるものです。一方で、一度に多くの人を運ぶことができる鉄道は、そのわずか4%にすぎません。さらに、1人を1km運ぶ際に排出される二酸化炭素量を比較しても、鉄道はマイカーの約8分の1となり、鉄道を利用することがいかに環境にやさしい移動手段であるかをお分かりいただけると思います。マイカーの環境性能は日々向上していますが、その保有台数の多さが地球環境へ大きな負荷をかけています。

名古屋鉄道では、電車で移動するという行動そのものが、環

境にやさしい行動であることをもっと知っていただきたいという思いから、平成18年6月から「電車で、ECO MOVE。」キャンペーンを展開しています。「ECO MOVE(エコムーブ)」とは、電車を使って「環境にやさしい移動をしよう」「環境にやさしい行動をしよう」というメッセージを込めた当社オリジナルのエコキャッチフレーズです。

キャンペーンを象徴する「エコムーブマーク」を当社発行のパンフレット類などに印刷するなど、皆さまの身近なエコ活動の一つとしての鉄道利用を呼びかけています。



省エネルギー車両(3300系)

もっと 知ってほしい、名鉄のエコ。

名鉄グループでは、環境のことを考えたさまざまな取り組みをしています。

例えば、今乗っている電車にも、地球にやさしい「エコ」のヒミツがいっぱい。

エコをもっと身近に感じることができるよう、ミドリずきんちゃん和 駅員さんなどが、お子様にもわかりやすく紹介しています。



ミドリずきんちゃん

manacaのヒミツ



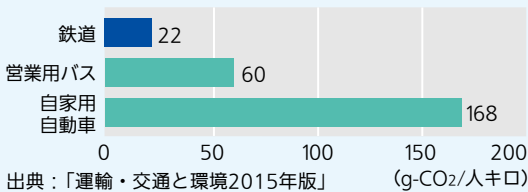
キップのヒミツ



信号機のヒミツ



● 1人を1km運ぶ際に排出する二酸化炭素量 (平成24年度)



「エコムーブマーク」デザインのコンセプト



電車で、ECO MOVE。

「ecology (環境)」の頭文字「e」をベースに、環境保全の象徴として誰もが認識できる「地球」をデザインの中心に据えています。親しみやすい「笑顔の電車」が、弧を描きながら上昇していくさまは、鉄道事業の躍動感とともに、環境にやさしい移動手段としての使命の永続性を表現しています。遠目には、地球のまわりをコトコト走り続ける、人にも環境にもやさしい電車を連想させ、鉄道事業と環境との調和を、柔らかに、かつ明快に示しています。

「パーク&ライド」で環境にやさしく!

「パーク&ライド」とは、会社や学校などの目的地に、直接クルマで行くのではなく、最寄りの駅やバス停近くの駐車場にクルマを停めて、鉄道やバスに乗り換え、目的地に向かう移動方法のことです。

パーク&ライドのメリット

渋滞する場所に行く前に乗り換えるので

- 環境負荷を低減できる
- 運転でイライラせずに済む
- 鉄道や地下鉄で予定時間までに確実に早く着ける
- 目的地で空き駐車場を探し回らなくて済む
- 都心や観光地の中心部の割高な駐車料金を払わなくて済む

名古屋鉄道では、パーク&ライドに適した駐車場を沿線に約19,900台分用意しています。



環境負荷データ

事業活動において、電力をはじめとしたエネルギーや資源を消費し、温室効果ガスや廃棄物を排出しています。これらの環境負荷をINPUT・OUTPUTとして把握し、環境負荷を低減する活動につなげています。



電気
428百万kWh



都市ガス
314千m³



プロパンガス
23千m³



A重油
210千ℓ



ガソリン
142千ℓ



灯油
83千ℓ



軽油
90千ℓ



熱
55,828GJ*



紙(A4換算)
12,634千枚

INPUT



水
395千m³

*GJ(ギガジュール)とは、仕事量、熱量および電力量の単位であるJ(ジュール)の10⁹倍に相当します。



CO₂
226千t-CO₂

OUTPUT



一般廃棄物
2,910t



産業廃棄物
559t



乗車券類(紙製乗車券)
23t

うち

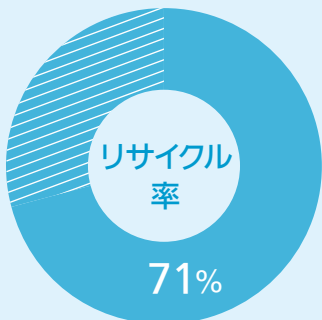
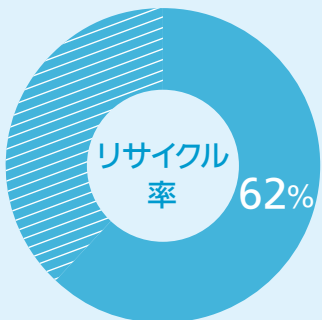
リサイクル 1,801 t

うち

リサイクル 399 t

うち

リサイクル 23 t



・名古屋鉄道(株)のみの数値。(※一部は、名鉄病院、健康保険組合、共済会を除く) ・数値は、切り下げて表示。 ・産業廃棄物の数値には、紙製乗車券類の数値を含まない。
・二酸化炭素排出原単位の算定は地球温暖化対策推進法に基づく「温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度」に準拠。

環境保全への取り組みを、投じたコストやその効果への両面からできるだけ定量的に把握し、効果的かつ効果的に環境活動を行うため、環境会計を導入しています。

平成26年度の環境保全のための投資額は8億46百万円、費用額は3億39百万円でした。新型車両の導入・VVVF制御化による省エネルギー化、環境教育やイベントを通じた啓蒙など、環境保全に対して積極的な活動を行いました。今後も環境保全コストの管理やその効果の分析を行うことにより、より一層効果的な環境保全活動に取り組んでいきます。

■環境保全コスト

(単位:百万円)

内容		投資額	費用額	
(1)事業エリア内コスト		846	270	
内訳	①公害防止コスト	騒音対策:ロングレール化、PCマクラギ化、防音車輪導入など 水質汚染対策:排水・汚水処理設備の設置、改修など	191	149
	②地球環境保全コスト	新型車両の導入、VVVF制御化など	655	42
	③資源循環コスト	廃棄物処理・処分、廃棄物のリサイクルなど	0	79
(2)上・下流コスト		グリーン購入	0	51
(3)管理活動コスト		人件費、会議費、ISO活動維持費、環境教育費用、環境報告書の作成、イベント費用など	0	17
(4)社会活動コスト		環境保全を行う団体への支援など	0	1
環境保全コストの合計		846	339	

■環境保全効果

効果の内容		環境保全効果を示す指標	
		指標の分類	指標の値(量)
(1)事業エリア内で生じる環境保全効果 (事業エリア内効果)	①事業活動に投入する資源に関する効果	鉄道電力(付帯電力含)	5,058千kWh
		太陽光発電	1千kWh
		水道水	12千m ³
(2)上・下流で生じる環境保全効果 (上・下流効果)	②事業活動から排出する環境負荷 および廃棄物に関する効果	使用済み乗車券のリサイクルによる 廃棄物抑制量	23t
		(3)その他の環境保全効果	③事業活動から算出する財・サービスに関する効果
(3)その他の環境保全効果	④輸送その他に関する効果	—	—

■環境保全対策に伴う経済効果

(単位:百万円)

効果の内容		金額
収入	主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクルまたは使用済み製品等のリサイクルによる事業収入	88
費用	省エネルギーによるエネルギー費用削減	85
	省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費用の削減	3
合計		176

- 集計期間:平成26年4月1日~平成27年3月31日
- 集計範囲:名古屋鉄道㈱の事業範囲
- 確実に把握が可能で、環境目的が高い項目を計上
- 金額は税抜き、百万円未満を切り捨てて表示
- 環境省「環境会計ガイドライン」および(社)日本民営鉄道協会「民鉄事業環境会計ガイドライン」に準拠
- 費用に減価償却費は含まず

名鉄グループの取り組み



交通・運送

運輸部門では、鉄軌道をはじめ、乗合バス・観光バス・タクシー等の旅客輸送や、トラック・海運・航空等を中心に、幅広く地域の皆さまの生活に根ざした事業を展開しています。

○“沿線花いっぱい運動”の実施

豊橋鉄道グループでは、環境推進運動の取り組みとして、“沿線花いっぱい運動”を実施しています。この運動は、花をテーマに、豊橋鉄道渥美線沿線の遊休地を活用し、緑化・景観整備を行うもので、田原市「菜の花まつり」に合わせた地域連携事業の一環として、渥美線沿線に“菜の花畑”を整備しました。また、平成26年度より「愛知菜の花ライオンズクラブ」とも連携し、渥美線沿線を菜の花で彩る「菜の花ロード」の取り組みも始めました。



渥美線沿線に整備した菜の花畑

お問合せ 豊橋鉄道株式会社 事業部 0532-53-2134

○照明器具をLEDに換装

名鉄運輸では、全国のほとんどの支店が24時間稼働していることにより、消費電力のほとんどが照明で占められています。

効率的なエネルギー利用や、エネルギー資源の消費抑制のため、トラックターミナルや流通倉庫の構内・事務所の照明をLEDに随時換装しております。

これにより、LEDへ換装した支店では、40%前後の電力使用量削減を実現した他、構内全体が透明感のある明るい雰囲気になり、作業環境の改善にも寄りました。



流通倉庫内



トラックターミナル構内

お問合せ 名鉄運輸株式会社 総務部 052-935-3987

○バイオディーゼルバスを導入

名鉄バスでは、植物性の廃食用油を再利用した燃料で動くバイオディーゼルバスを導入しています。バイオディーゼル燃料の二酸化炭素発生量は、原料の植物が吸収した二酸化炭素量を超えることはないため、石油などの化石燃料にくらべて環境にやさしい燃料といえます。また、硫黄酸化物や黒煙の発生が非常に少なく、空気を汚さない燃料としても環境負荷軽減に寄与しています。

※名鉄バスでは、名鉄グループ内のホテル・レストラン・遊園地などの飲食施設等から回収した使用済みてんぷら油（植物性廃食用油）を使用しています。

お問合せ

名鉄バス株式会社
管理部
052-588-0780



○営業所内、バス車内の照明をLED化

営業所内、バス車内の蛍光灯に比べて消費電力量が少ないLED照明器具へ交換することにより、消費電力を減らし、環境負荷の軽減を図っています。

約580両の車両にLED照明機器を導入しているほか、各営業所の事務所、休憩室、給油所など、照射時間が長い箇所や電灯の交換が高所作業となる箇所を中心に、約650本の蛍光灯をLED照明に切り替えて電力使用量の削減に努めています。



営業所内



バス車内

お問合せ 名鉄バス株式会社 管理部 052-588-0780

○主要停留所でのアイドリングストップの取り組み

宮城交通では、乗務員の環境への意識向上を目的に、市内の主要停留所において、アイドリングストップを義務付けする取り組みを行います。同取り組みは、9～11月の、計3ヵ月間実施を予定しています。

今後も実施率の向上を目指して継続的に実施することで、エコ意識の醸成に取り組んでいきたいと考えています。

お問合せ 宮城交通株式会社 安全管理部 022-771-5313

不動産・技術

不動産部門では、土地建物の販売・賃貸借、不動産の仲介業、建築工事の設計・施工・監理などの事業を展開しています。また、情報・電気・通信等の分野で幅広く技術開発およびサービス提供を行っています。

○ クールペーブについて

ヤハギ道路は、ワンランク上の高保水性能を特長とした、地球環境にやさしい保水性舗装「クールペーブ」の提案を進めています。真夏日には60℃近くまで上昇する路面温度を、舗装内に吸収した雨水等水分の気化熱によって10℃以上低減します。この効果によって都市部のヒートアイランド現象を抑制し、熱帯夜の解消に貢献します。市街地道路、生活道路、駐車場の他、サイクリングロード、公園広場、団地内、歩経路、遊歩道といった「人」が集うあらゆる場所におすすめてです。今後も、クールペーブを通じ、人に優しい生活環境の実現に貢献していきたいと考えています。



保水性舗装

お問合せ ヤハギ道路株式会社 0565-36-1112

○ EGPIについて

ヤハギ緑化では、芝生駐車場「EGP」(Ecological Grass Parking)の普及を推進しています。自動灌水装置の標準装備や既存舗装上への直接施工を可能にするなど、技術向上に努めてきました。従来は、工場立地法や地域緑地制度の緑地面積確保対策として多く採用されてきましたが、最近は都市緑化への助成制度も整備されつつあり、民間企業等への環境提案も積極的に行っています。また、ウェスティンナゴヤキャッスルでの取り組みをはじめとした産官学協働の都市緑化実験にも参画しており、都市環境や景観・防災・生物多様性を軸に地域貢献していきたいと考えています。



芝生駐車場

お問合せ ヤハギ緑化株式会社 緑化事業本部 052-937-6551

○ 高効率空調機へのリニューアル提案

メイエックでは、化石燃料(灯油)を使用した空調機をしているお客さまへ最新型の電気式高効率空調機へのリニューアル提案を行っています。

これにより御採用頂きましたあるハイウェイレストランでは光熱費で65%、CO₂で年間2万tの削減を実現致しました。今後も、化石燃料(ガス・灯油・重油)を使用の大型空調機を御利用のお客さまへは環境提案を積極的に行い社会貢献に取り組んでいきたいと考えています。



お問合せ

株式会社メイエック 営業部
052-678-1773

○ 日本初 陸上競技施設へのLED投光器取付

メイエックは、名古屋市瑞穂公園陸上競技場の照明器具更新工事において当初設計案の水銀灯2050WからLED992Wタイプへの変更を提案し日本で初めて陸上競技施設でのLED照明を採用頂きました。

スポーツ施設の夜間照明にLEDを採用するには競技面(ピッチ)での明暗のムラを解消する必要がありましたが、最新型の器具とコンピューターによる216台すべての取付位置シミュレーションを行いこの問題を解決しました。これにより競技面の明るさ向上1500lx、明暗ムラの解消、消費電力は当初案から50%低減を実現しました。

当社は多様なスポーツ施設のニーズにもフレキシブルに対応し視環境と地球環境にやさしい提案を今後もすすめてまいります。



お問合せ

株式会社メイエック 営業部
052-678-1773

○ 温水循環式ポイント融雪器

メイエックでは、温水(不凍液)を循環させる方式のポイント融雪器を開発・販売しています。温水を循環使用するため、従来の電気融雪器に比べて省エネ効果の高い融雪器として、他の鉄道会社でも採用されています。

お問合せ

株式会社メイエック
技術開発部 技術課
052-678-1843





流通 レジャー・サービス

流通部門では、百貨店や専門店、コンビニなど小売、駐車場やカーリースほか、多岐にわたって事業を展開しています。さらにレジャー・サービス部門では、ホテルやアミューズメント事業、博物館明治村をはじめとした文化テーマパークや、ロープウェイ事業などを展開しています。

◎ めいてつりサイクルキャンペーン

名鉄百貨店では、2015年6月5日の世界環境デーにあわせ、めいてつりサイクルキャンペーンを本店、一宮店で実施し、たいへんご好評をいただきました。

お客様の衣料品や服飾雑貨などのご不用品を、下取りでお預かりし、反毛原料やウエス材、中古衣料として、リユース、リサイクルさせていただくものです。キャンペーン会場では、その過程を写真パネルで展示し、お客様に取り組みをご紹介しました。(この取り組みは、2014年11月、本店で実施した冬物の衣料リサイクルキャンペーンに続き2回目。)

お問合せ 名鉄百貨店 施設部環境・防災・ISO担当 052-585-2470(ISO担当)



キャンペーン会場

◎ スマート・クール・バッグ

名鉄百貨店では、日本百貨店協会が毎年夏季に製作する保冷タイプのエコバッグ「スマート・クール・バッグ」をご紹介しています。このエコバッグは、2011年から東日本大震災復興支援に向け、売上の一部を寄附する商品として企画されています。2015年、黒地のバッグは、継続して「岩手・宮城・福島の子ども基金」に、ストライプ地のバッグについては、地球温暖化防止のため福島県の森を育てる「喜多市森林整備加速化プロジェクト」に寄附させていただきます。(価格は税込各500円(数量限定)。場所＝本店[メンズ館]地下1階フレッシュステーションサービスカウンター、一宮店地下1階食品サービスカウンター、1階インフォメーション。)

お問合せ 名鉄百貨店 施設部環境・防災・ISO担当 052-585-2470(ISO担当)



◎ カーシェアリング・サービス「カリテコ」の実施

名鉄協商では、車を利用し情報を駆使したエコなサービス「car+it+eco」=カリテコを展開しています。車をシェア(共有)する事により、CO₂削減・渋滞緩和や交通事故の減少に繋がります。また、名鉄発行のmanacaでカリテコの登録ができます。

現在はステーション数250ヵ所、車両台数311台(平成27年4月現在)となっています。



お問合せ

名鉄協商株式会社 カーシェア事業部 052-582-2495

◎ 「MEITETSU ECO DIESEL OIL」を販売

名鉄産業では、平成20年7月から名鉄グループのバス・トラック会社を中心とした運輸会社向けエンジンオイル「MEITETSU ECO DIESEL OIL」を販売しています。このオイルは、「名鉄」の名を冠した名鉄産業初のPB商品で、従来の製品より交換サイクルを長くすることが可能となり、整備費や廃油排出量の削減につながるほか、平成15年規制の排出ガス規制に対応した環境にやさしいエンジンオイルです。

すでに名鉄グループのバス会社、運送会社に広く採用されています。



MEITETSU ECO DIESEL OIL

お問合せ

名鉄産業株式会社 エネルギー商事部 052-821-2106

○ サービスエリア店舗の節電の取り組み

名鉄レストランでは、運営するサービスエリアの店舗において照明の効率化による節電に取り組んでいます。サービスエリアは365日24時間営業であるため、照明への対策が大きな節電効果を期待できます。上郷サービスエリアでは平成26年8月に既設の照明器具を活かしつつ小額な投資で照度を向上させることができる高反射板を導入しました。高反射板を導入することで、売場の照度を落とすことなく蛍光灯本数を間引くことができ、年間で67,000kWh、約5.4%の節電を実現しました。他のサービスエリアにおいても店舗改装に併せて照明のLED化を進めていくことで節電に取り組めます。

お問合せ 株式会社名鉄レストラン 0586-85-5601



高反射板導入前



高反射板導入・間引き後

○ 団体向け環境体験プログラム“ビーチコーミング”

ビーチコーミングとは海岸 (beach) にクシを通す (combing) という意味の造語で、分かり易く言うと、海岸に落ちている砂の粒以外の漂着物を拾って観察するという意味です。海岸には、植物の種子や貝殻といった自然由来のものから人工物 (= ゴミ) まで様々なものが落ちています。ガラス片の角が波の力で丸くなった“シーグラス”は美しく、まさに自然が作り出す造形美と言えます。漂着物がどこから流れてきたのか、身近な海に広がっている“環境”について改めて考えて頂くことがこのプログラムの目標です。シーグラスや貝殻等の漂着物でストラップなどを作ってお持ち帰りして頂き、思い出作りにも役立っています。

お問合せ 南知多ビーチランド 0569-87-2000



シーグラス



貝殻工作(ストラップ)

○ 使用済み天ぷら油のリサイクル活動

名鉄産業では、平成20年2月から使用済み天ぷら油を自社飲食店の他、名鉄レストランなどから回収し、それを提携会社にて環境にやさしい「100%のバイオディーゼル燃料」にリサイクル・再資源化する取り組みを行っています。軽油と比べてCO₂削減効果があり、地球温暖化防止の一助となっています。「バイオディーゼル燃料」は、路線バスの運行用として名鉄バスへ供給しています。

お問合せ 名鉄産業株式会社 エネルギー商事部 052-821-2106



○ 鳥糞害対策の提案

名鉄産業では、近年深刻になっているハト糞害への対策として、「防鳥用忌避剤」をご提案しています。鳥類の学習能力や習性を利用し、必要な箇所だけに忌避剤を塗布することで大掛かりな工事を実施せず安価な対策が可能です。

また、環境に配慮し、忌避剤の主成分はハーブ系植物エキスと保湿剤・増粘剤・植物油を配合した無害なものになっています。

お問合せ 名鉄産業 環境メンテナンス部 052-821-2108



防鳥用忌避剤施工

編集方針

本報告書は、当社グループの環境への取り組みについて紹介する冊子として作成しました。

より新しい情報を掲載するため、特集ページにおいては、現在展開中の「名鉄エコプロジェクト2015」について紹介しています。そのほか、地域貢献活動についても、グループ各社を含めた実績を掲載しました。

本報告書の発行を通じて、さまざまな情報を開示し、ステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを促進していきたいと考えています。

対象組織範囲

名古屋鉄道(株)と名鉄グループ129社※を対象としています。

※平成27年10月1日時点

対象期間

平成26年4月1日から平成27年3月31日までとしました。ただしそれ以外の期間に取り組んだ内容も一部記載しています。

記載方法

環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」を参考にし、可能な限りガイドラインに記載された事項を網羅するよう努めました。

本報告書に関する お問合せ先

名鉄グループ アクション・エコ推進委員会事務局(名古屋鉄道株式会社事業企画部内)
〒450-8501 名古屋市中村区名駅一丁目2番4号
TEL 052-588-0805 FAX 052-588-0845
E-mail action-eco@nrr.meitetsu.co.jp



用紙

この印刷物には適切に森林管理されたFSC認証用紙を使用しています。



フォント

視認性、判読性に優れたユニバーサルデザインフォント(書体)を使用しています。



インキ

植物油インキの使用により石油系溶剤の使用量、VOC(揮発性有機化合物)発生を抑え、鉛、水銀、カドミウムなどの重金属も使用していません。



印刷

インキ転写時にイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な、「水なし印刷」を採用しています。

名古屋鉄道株式会社

環境報告書はホームページでもご覧いただけます。

<http://top.meitetsu.co.jp/>



このキャンペーンマークは、豊かな地球環境の象徴であり、同時に名鉄グループ エコ・ビジョンの基本理念を達成するための4つの要素—環境保全に対する「意識の向上」「技術力の向上」「地域との連携」を3枚の若葉で、それらを根底で支える「法令遵守」をレールで表したものです。